

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月 3日

**【評価実施概要】**

事業所番号	0170503858		
法人名	株式会社 フロイデプランニング		
事業所名	グループホーム けあふる白樺		
所在地	札幌市南区藤野4条2丁目3番18号 (電 話) 011-591-1133		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年11月30日	評価確定日	平成22年2月12日

【情報提供票より】 (平成21年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人,	常勤換算6.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円		光熱費 20,000円
	その他の経費(月額)		暖房費(11~3月) 15,000円
敷 金	有 ( 72,000円 )		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要 (11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	3 名	要介護 2	3 名
要介護 3	0 名	要介護 4	1 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 85.7 歳	最低 79 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川谷中央医院、愛全病院、小笠原クリニック札幌病院他
---------	---------------------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

高齢者の安全と安心を第一に、暮らしやすいホームを目指した運営法人の考えで、車椅子や介護度の高い利用者が快適に過ごせるよう、清潔で広い居間や廊下、ホーム全体の床暖房や特殊浴槽を利用した快適な暮らしを提供しているホームです。職員は理念に基づき、利用者の尊厳、自立、自由を实践したケアサービスで利用者の希望を聞きながら寄り添い、意欲をもって生活できるように支援しています。カルタや百人一首で、発語しづらい利用者の声が出るようになったり、利用者同士や職員との良好な関係で笑顔で暮らせ安心が窺えるホームです。

**【重点項目への取組状況】**

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点はありませんが、自己評価での気づきや課題には、管理者を始めとする職員の取り組む姿勢が見られます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で検討され、管理者が中心となり作成しています。全員で自己評価を作り上げる積極的な取り組みがされています。</p>
	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>過去1年以内に2度の運営推進会議が開催されていますが、定期的な開催ではありません。運営推進会議の意義と役割を認識し、より良いサービスの実践に向け、おおむね2ヵ月に1度の定期的な開催と、今回のサービス評価の結果を議題に含め話し合い、参加者からの要望や助言を聞く機会を設けながら、ホームの運営への反映とサービスの質の向上に向けた取り組みを今後期待します。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に積極的に話しかけ、何でも話しやすい雰囲気を作っています。いただいた意見は、「気づきのノート」に記載して職員で伝達し話し合いを持つなど、運営に反映しています。また、外部の苦情受付の窓口を紹介しながら、風通しの良いホーム運営に努めています。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の際は、気軽に近隣住民の方々と声を掛けあっており、地域の婦人部が年2回見学に訪れて、利用者と交流に努めるばかりでなく、認知症に対する啓発も行なうなど、地域の一員としてして活動の場を広げつつあります。年2回の避難訓練はホーム単独で行なっていますが、災害時の協力体制を確保するため、地域住民の参加協力のポジションを明確にした取り組みを今後期待します。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着していることを根幹にした利用者の尊厳、自立、自由をホームの理念として、作り上げたものをホームでの日々のケアに結び付けています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のカンファレンスでは、理念に沿った十分なケアが実践されているか、職員同士で確認を取りながら日々取り組みが行なわれています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃活動に職員同伴で出席したり、年始の輪投げ大会で交流に努めています。町内の婦人部の見学が年2度あり、手作りのお手玉等の寄贈をしていただくなど、交流を通してホーム運営の理解と認知症に対する啓発を行なっています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で項目別に分担されて作成したものを話し合い、管理者がまとめて完成しています。前回の外部評価での改善項目はありませんでしたが、今後は評価で課題となった点を含め「改善シート」を活用した取り組みを検討しています。		

札幌市南区 グループホーム けあふる白樺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去1年以内の運営推進会議の開催は12月と7月の2回の開催で、当ホームと系列ホームとの合同開催となっています。会議では避難訓練の内容について出席者からの質問と提案やアドバイスを受けるなど、ホームの運営向上に反映させています。	○	運営推進会議は2ヵ月毎に、ホーム単独での開催を期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課、区の保護課と連携を図り、利用者の暮らしとサービスの質の向上に向けた相談やアドバイスをいただいています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや外出、行事の様子は写真を載せたホーム便りを毎月発行し、請求書や金銭管理の報告書と共に郵送しています。利用者一人ひとりの暮らしの様子は、3ヵ月毎の介護計画作成の際に、お手紙でお知らせをしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに訪問した際に、職員が積極的に声をかけて、家族からの声を聞くようにしています。いただいた意見は「気づきのノート」に記載して、職員が情報を共有すると共に、ホーム運営及び介護計画の作成に反映するよう努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の法人内の異動や離職の際は引き継ぎをしながら、新人職員に早く馴染めるように在職者がカバーをしています。離職や異動の職員もホームを訪問することがあり、利用者との係わりを持つなど、利用者のダメージを防ぐ配慮が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のスキルアップの研修の必要性を十分認め、新人職員のサポートをするなど、段階的に指導をしています。職員の外部研修への参加機会や、法人内での計画的な内部研修は、今後の継続としています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が区の管理者研修で交流しています。養護施設の管理者の見学を通して交流を図っており、次回はホームから見学に行くことを検討しています。近隣のホームとの相互訪問で交流の輪を広げることも今後の検討課題としています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からホームへ入居する利用者が大半ですが、家族や利用者に面談し、馴染みの関係ができてから利用開始をするように支援しています。在宅からの利用者には自宅に伺い、少しでも馴染みの関係を作りながら、不安が無く利用開始できるように支援しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に支え合う関係を築いていくために、利用者から教えていただく場面を作り、カルタ、百人一首、将棋等を教わり、昔話を聞かせていただきながら、出来ること、出来ないことを見極め、しっかりと見守りをしながら、喜怒哀楽を共にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を利用して、利用者の意向に沿うように散歩や草刈、入浴時間帯や好きな献立等を出来る限り把握するようにしています。困難な場合は表情や声のトーンで把握するようにしています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員、管理者、計画作成担当者と家族で相談し、介護計画が作成されています。利用者の状態を家族に説明し、家族の意見や要望を取り入れた内容になっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の全員が3ヵ月毎に介護計画を作成しますが、毎月のモニタリングで目標の実施状況を見直し、新たな課題を加えて現状に合ったものを家族、計画作成担当者、管理者と相談して作成しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への送迎や、書籍の購入、買物などに同伴し、喫茶店でコーヒーを飲むなど、利用者の希望や要望により柔軟な対応をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は毎週かかりつけ医の受診をしております、24時間対応の医療機関も確保されています。訪問看護師も毎週来ていただいております、適切な医療支援を受けています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する指針を作成してあり、入居する際に同意書をいただいております。終末期の看取りの経験はまだありませんが、24時間対応の医師を確保しながら連携を密にして、利用者、家族の要望があれば対応できる状況になっています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけは十分に気を配っておりますが、面会簿は日付順に訪問者の氏名が連記されています。	○	面会簿は、単票式の採用の検討を期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて過ごせるよう、散歩や入浴時間を希望に沿うようにしています。編み物や調理の手伝い、将棋など利用者の過ごしやすいう支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの献立や外食を摂り入れています。週3回の昼食は調理専門の職員が調理して利用者喜んでいただいています。職員も同じテーブルで食事介助や会話をしながら食事をしています。利用者は片付けや配膳を職員と一緒にいただいています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴回数を基準にしていますが、希望があれば随時入浴していただいています。入浴を拒む利用者には、職員の声かけで気分を変えて入浴が出来るように支援しています。1階に特殊浴室もあり、適切な入浴支援が行なわれています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝いや、菜園での草取りや収穫、また、壁を彩る塗り絵や飾りで利用者の生活歴を活かして、好きなことに張り合いが持てるような支援をしています。カルタを読んだり、新聞のチラシを利用してゴミ入れを作るなど、機能回復のために行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	計画的に外出の計画を立てて、出かけています。好天時の散歩に加えて、初詣、雪祭り、花見、動物園やショッピングモール、外食など、毎月のように外出をして閉じこもりの防止に努めています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室には鍵はついていません。2Fホームの入口も鍵をかけていませんので、職員の見守りで利用者の出入りを確認しています。外玄関のみ夜間帯は防犯目的のため施錠しています。		

札幌市南区 グループホーム けあふる白樺

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施し、救命救急の講習も職員全員が受講済みです。避難訓練に近隣住民への参加呼びかけは、今後の課題としています。	○	避難訓練には近隣住民の方々の協力をいただいて、災害時にスムーズに避難できる体制の検討を期待します。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は個人記録に記載しており、食事は過去にカロリー計算されたメニューを活用し、バランスの取れた内容で調理されたものが提供されています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りや利用者の手作りの日めくりで、温かな雰囲気のある共用空間になっています。居間のトップライトから明るい光が入り、廊下は整然として、杖での歩行や車椅子でも安全に移動できるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は床暖房になっており、利用者の居室の温度調整はスタッフルームで一括して適切な温度になるよう管理しています。利用者の昔なじみの物や使い慣れた物を持ち込み、居心地良く暮らしています。		

※  は、重点項目。